

お寺さんの  
出版です。

稲葉耶季 著

## 「食べない 死なない 争わない」 を読で！

著者稲葉耶季氏は、キリスト教教会牧師を両親にもち洗礼も受けられた、クリスチャンであった。今は、佛教徒に改宗され、インドに佛教大学設立プロジェクトのアドバイザーとして、インドと日本を行ったり来たりの活躍をされている。元那覇地方裁判所判事・現代は弁護士さん。

人生はすべて思いどおり  
伝説の元裁判官の生きる知恵

稲葉耶季 著  
元那覇地方裁判所判事・現代は弁護士

# 争わない 食べない 死なない

ア  
キ  
ン

2018/06/30

著者は、西洋医学を避け、食事とホメオパシーで健康をたもっておられる。ホメオパシーとは聞きなれない言葉だが、インドでは重要視されている医療で、多くの症状にはやく効果を示すと云われている。ホメオパシーは、日本では、一時消極的キャンペーンが行われたりしたこともあって、「怪しい物」「うさんくさいもの」と見られがちですが、体を痛めずに治すすぐれた医療です。イギリスの王室で行われ

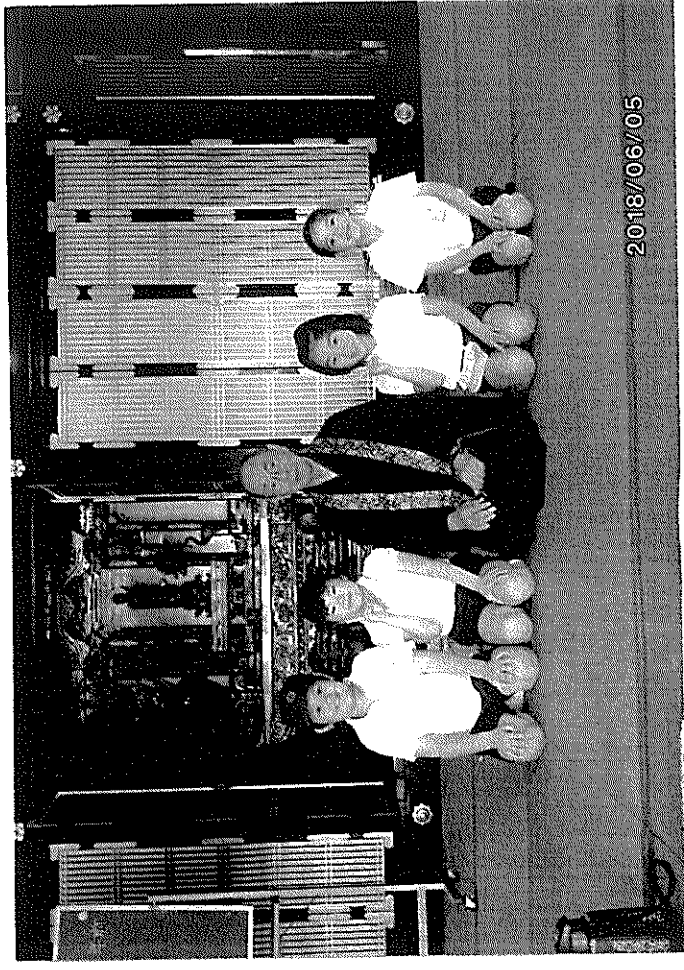
る医療はホメオパシーが中心で、王立ホメオパシー病院や王立ホメオパシー大学も  
あります。

## やしな こくもつ じゅうばい やしな ウシを養う穀物で十倍の人が養える。

ゾウやウシが、植物しか食べないのに、強固な筋肉や骨、牙を保持しているられるのは何故でしょうか。それは「腸内細菌」です。ゾウやウシといった草食動物の腸内には、おびただしい数と種類のバクテリア（腸内細菌）がいます。もちろん、バクテリアは人間の腸にもいますが、雑食である人間と草食動物とは、その数と構成が違います。草食動物の腸には、植物から取り込んだ成分を、筋肉や骨・牙材料に変えていくバクテリアが数多く存在するのです。草食動物は、元素の核となる量子の数を変換するメカニズムを持っていています。これを「原子転換（生体内原子転換）」といいます。

直接的かつ短絡的に、「カルシウムをとったから体内でカルシウムが増えて骨が強くなる」「タンパク質を取ったから筋肉がふえる」というものではなく、草食動物はバクテリアの助けをかりて電子転換するメカニズムが発達しているわけです。

テイク・ナット・ハンというベトナムの坊さんがおられる。テイク・ナット・ハンさんは、ベトナム戦争の折、非暴力と反戦を訴え続けたため南北どちらの政権からも弾圧され、フランスに亡命されました。「食」について次のように語られている。「ウシを飼うには森林を伐採して牧場にすることで環境を破壊し、多くの穀物をウシに食べさせなければならぬ。大量の穀物をウシが食べて、その肉を限られた人たちが食べている。その穀物を人が直接食べたならば、はるかに多くの人が養え、餓死する人がへる」と。(つづく)



町たんけんの子等